

ボランティア活動における 園芸の特異的役割

森村 洋子(園芸文化研究所)

1. 研究目的

21世紀は細分化された科学研究や科学技術を統合し、広く社会に役立てることが求められる時代であると言われている(1999年世界科学会議において提唱)。園芸学はこの点において今、きわめて重要な役割を担う学問分野の一つになっている。

一方、心身の健康を保ちながら年齢を重ねる「長寿社会」の実現とともに一般市民による幅広いボランティア活動への関心が高まっている。

園芸は言うまでもなく、生命を慈しみ育む、愛育の精神を基本にして成り立っている。さらに植物という生命体は動物と異なり、生息の場所を自由に移動することができないために環境の影響を受けやすい特徴を持っている。これらのことから、ボランティア活動に園芸を導入することにより、植物の生育過程への深い関わりという園芸の持つ特質が、直接的にボランティア活動の成果と結びつくことが期待できる。従って「園芸介在型ボランティア活動」には他のボランティア活動には見られない、独自の意義があると考えられる。

本研究は園芸活動に自発的に取り組んでいるボランティアに対して意識調査を実施し、その結果を比較分析することにより、園芸がボランティア活動において果たす特異的な役割を明らかにすることを目的としている。今年度は時間的制約のもとでボランティア自身の活動参加への姿勢を大まかに調査するに止まった。

2. 研究方法

大学病院敷地内の「小児慢性疾患患者家族宿泊施設」に花壇を設置し、随時、植栽・管理を行いながら患者およびその家族との交流を図った。この活動を約1年間続けた後、園芸ボランティアグループ構成員の活動に対する姿勢、感想などを個別調査し、結果をまとめた。

3. 結果および考察

東海大学病院 小児慢性疾患患者家族宿泊施設「かもめの家」(神奈川県伊勢原市栗窪4-1) 敷地内草地に園芸ボランティア14名(現在は17名)により花壇(20平方メートル、煉瓦囲い)を制作し、植栽・管理を開始した(2002年3月)。「かもめの家」は最大9世帯が居住可能なNPO法人認証団体の施設であり、おもに国内全県にわたる遠隔地の母子が在住し、受診・治療に専念している。大学病院まで徒歩2分という地の利が患者・患者家族と医療関係者との連携を容易にし、今後の「総合医療」のあり方を探る上でも注目を集めている。また、施設内で行われる他の支援ボランティア活動も活発に行われている。

2003年度は春花壇、夏花壇の制作と次年度春花壇のための播種、育苗、花苗の植え込み等を中心に行った。1年間の園芸活動の回数は1人平均10回であった。1年間の活動の後、園芸ボランティア14名を対象としてアンケート形式による意識調査を実施した。調査は園芸ボランティア活動の意義を問うものであり、予め提示した項目(8項目)について関心の高さを順位により答える形式を採った。

活動開始から約1年後に完成した春花壇(ボーダー花壇)は15種類の二年生および多年生草本が同時期に開花する、比較的完成度の高いものであった(図19)。園芸活動に参加したボランティアに対する意識調査の結果、意義として最上位に位置づけられた項目は「植物や園芸活動そのものから与え

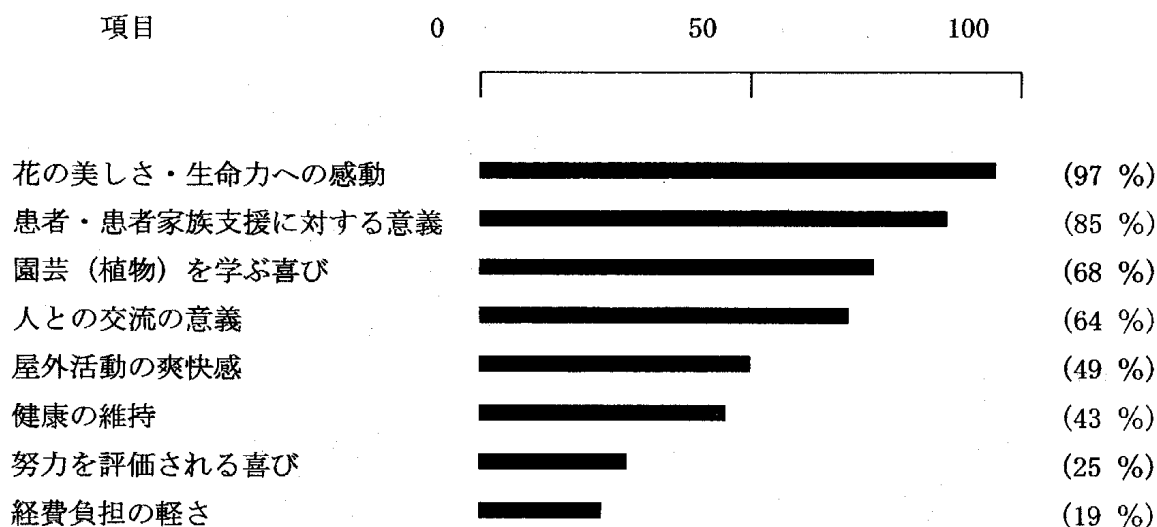
られる感動」であり、活動本来の目的である「対象者への支援に対する意義」を凌ぐ結果となった。また、ボランティア活動を通して園芸を学ぶ意欲が増すことが窺われた。一方、人間的交流、健康維持など、他のボランティア活



図 19 制作した春花壇の一部

動においても得られる意義は比較的下位に位置づけられた (図 20)。また、園芸ボランティア活動への継続参加の意思について調べた結果、全員から今後も続けたい (是非続けたい : 67 %、続けたい : 33%) という回答を得た。

園芸は比較的長期間にわたる生命体との対峙の作業である。従ってそのような作業を通して、生物のもつ有限性や多様性に触れ、また、自然がもたらす恩恵と畏怖という二面性を知ることにもなる。ボランティア活動にこのような園芸に基づく要素を取り込むことによって、活動参加者自身の生活の質 (quality of life) の向上が図られ、対象者への支援という本来の目的に対してもよい結果を生じるのではないだろうか。現在、園芸学の社会的活用の一分野として「園芸療法」に関心が集まっているが、結果の評価に対する



* 数値は優先順位と回答数により設定した関心度 100%に対する割合を表す。

* 調査は活動開始より 1 年後に実施した。

図 20 園芸ボランティア活動がもたらす意義

基準はまだ、定まっていない。この問題を考え合わせると、園芸への能動的参加の場合（例：園芸ボランティア）と受動的参加の場合（例：園芸療法対象者）とではその結果に差異が生じるのではないかと思われる。この観点から今後、ボランティア活動における園芸の役割についてさらに詳細な調査・分析を試みたい。

本研究を行うにあたりご理解とご支援をいただいた東海大学医学部および伊勢原市に厚く御礼申し上げます。